

仙台市太白山自然観察の森 情報誌 2022年9月号

森のおくりもの 9

NO.372 The Gift from Woods

オニヤンマ(オニヤンマ科)



この顔、角度を変えてみると「にっこり笑顔」から「にんまり」ほくそ笑んでいるように見えませんか(写真右下枠内)。日本で一番大きい、体長100mm前後のトンボ・オニヤンマ。キレイなエメラルドグリーンの複眼は頭部の大部分を占めており、2万個以上の個眼が上下、左右、前後と約270度の広い視野で獲物を狙うハンターです。

秋は多くの「赤トンボ」たちが目を楽しませてくれますが、観察の森の川沿いやセンター前などでパトロールするトンボの王者の姿も、今年ももう今月で見納めですね。クールに飛翔する姿を探しに、ぜひお越しください。

【館長:佐藤由美】

森のことは

自然の様子や出来事を四字熟語やことわざなどに当てはめ、森で感じた言葉をお届けします。

『臨機応変』(りんきおうへん)

今年の夏は、気温が高い割にはすっきり晴れた日は少なく、雨が多く非常に蒸し暑かったですね。夏の風物詩のセミの鳴き声が暑さを助長し、やかましいから黙って欲しいと思ったほどです。このところ急に秋めいて、朝晩は肌寒いくらいになり、あれほどうるさかったセミの声も朝は聞こえなくなりました。天気予報では、気温が高い傾向で暑さが長引くと言っていたので覚悟していたのに、急に予報が変わって戸惑いを感じてしまいます。

最近、様々な要因で天気が急変することもあり、予報が難しいのでしょうか。昔からある天気の言い伝えではどうなのでしょう。「セミが鳴き止むと雨」というのがあります。これの因果関係が研究された記事を調べてみました。セミは、羽が濡れてしまうと飛べなくなり、敵に襲われやすくなるので雨が天敵です。オスが求愛のために鳴くので、雨だとメスが飛んでこないため、鳴かないというのが基本的な習性です。しかし、種類によって鳴く時間帯が決まっていて、地域によっても差があり、鳴き止んだから雨だとは一概にはいえません。

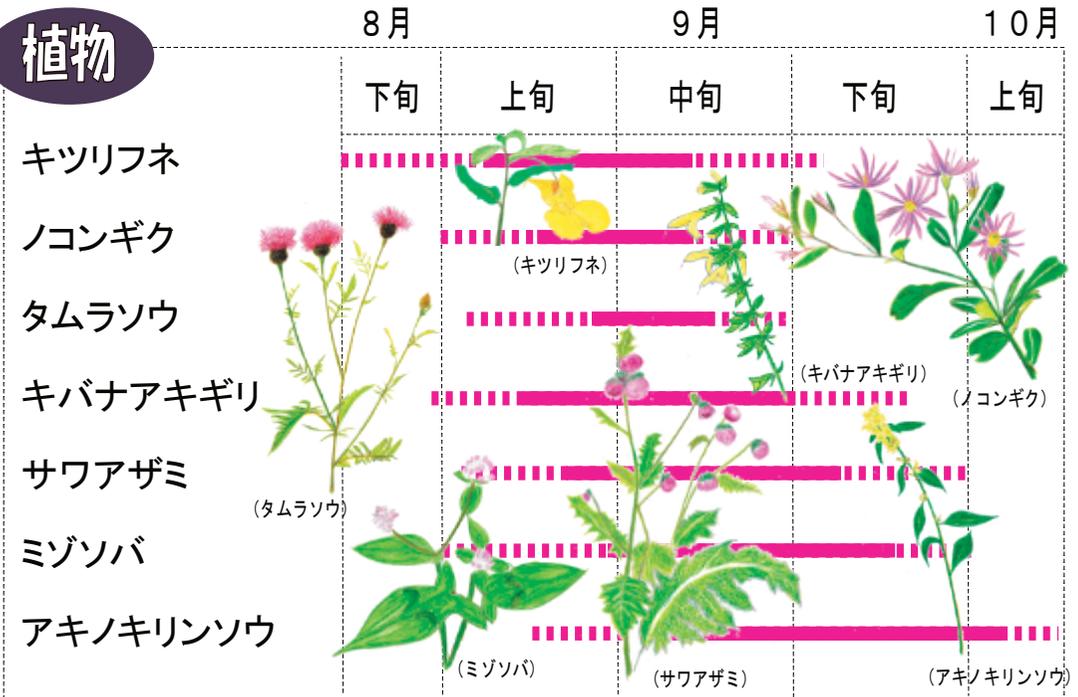
セミのオスは、気温・湿度・気圧・明るさなどの様々な変化を感じて、大丈夫なときに鳴いているようです。確かに、場合によっては雨でもセミが鳴いていることが実際にあります。熱帯夜の日などは、夜でも鳴いていることもあります。次の世代に命を繋げるため、多少の条件が異なっても柔軟に対処して懸命に鳴いているのではないかと思います。『臨機応変』という言葉があります。「その場の状況に応じて適切に対応したり、適切な手段を選ぶこと。型やマニュアルに囚われずに、その場の状況から適切な行動をとること」という意味です。セミにはこの言葉がピッタリだと思いました。

セミというと真夏の代名詞のイメージですが、8月末頃から鳴き始めるチツゼミがいて、秋の訪れを感じさせます。また、ミンミンゼミやツクツクボウシなども9月いっぱいまでは鳴いていて、鳴く種類が変わることで季節の移ろいが感じられます。環境に柔軟に合わせて生息しているセミ。最近、南の地域のクマゼミが関東地方まで北上してきているようで、環境の変化がわかります。今の変化にはセミは臨機応変に対応できても、戸惑うところでは済まない状況の生きものもいると思われるので心配です。 【レンジャー：新田隆一】



9月の生物ごよみ

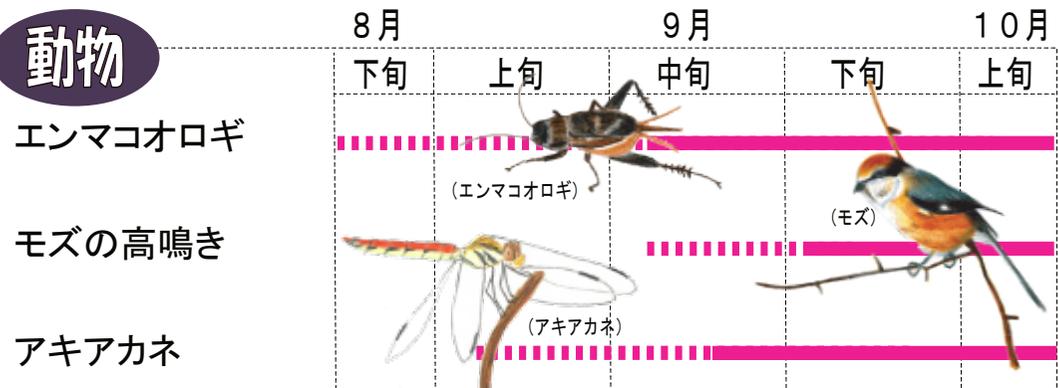
植物



9月になるとコオロギやキリギリスの仲間たちが盛んに鳴きはじめ、夜の森がにぎやかになってきます。日本人は昔からコオロギやキリギリスを飼ったり、野外で鳴き声を聞いて楽しんだりしてきました。鳴く虫を楽しむ習慣がある国は世界中でもそんなに多くありません。自然観察センターでも10年くらい前からスズムシを飼っていて、今年も8月半ば頃にその第一声が聞かれました。スズムシの音色はとても心地よく響き、こころが癒されます。『鳴く』といっても虫たちは声を出して鳴くのではなく羽と羽をこすり合わせて音を出すのですが、中にはほかの方法を使って音を出す虫たちもいます。最近では古来からある『鳴く虫を楽しむ文化』がすたれつつあります。私はそんな自然の音を楽しむ気持ちをいつまでも大切にしたいと思っています。

【レンジャー：齋 正宏】

動物

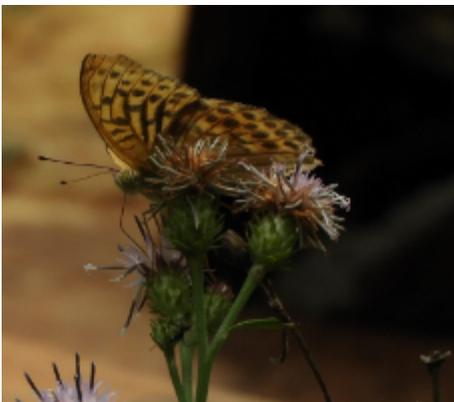


森の「あれこれ」



「“仙台”と名のつく生きものは？」

前に“観察の森で名前にセンダイ（仙台）とつく生きものって何？”と聞かれ、思いついたのはセンダイムシクイとセンダイハギでした。でもそれは“仙台”でなく“千代”だったり園内で確認できなかったりで今一つもやもやしたままでした。今回は正真正銘“仙台”とついた花の話です。



センダイトウヒレン（仙台塔飛廉）と云います。名前の由来は、基準産地が仙台であること、塔飛廉は日本の種のセイタカトウヒレンを意味したものと考えられており、更に飛廉は中国名でキク科ヒレアザ属をさすことから来ているようです。高さが30cmから80cm程、日本固有種。

花の色は淡紫色と紫色のツートンカラー。私には線香花火を逆さまにしたように見えて（笑）なにか不思議な雰囲気のかわいい花です、観察の森では9月以降に見られます。



昨年この花で撮影できたのは、イチモンジセセリ（上の写真）、ヒョウモンチョウの仲間（左中の写真）、キタキチョウとドロバチの仲間（左下の写真）などでした。今年はじっくり観察して見ようと思えます。天気とタイミングが良ければ、もっといろいろな生きものに逢えるかもしれません。【レンジャー：木田秀幸】

森は糸



森は布

森は様々な生き物が互いにつながって
森として生きているんですね (*_*)

9月は、タテハチョウ科のスミナガシの幼虫(写真④終齢に近いもの)をよく目にすることがあります。過去の成虫出現記録7年間分を調べてみると、成虫は、5月上旬から6月上旬、そして7月中旬から9月上旬に多く観察されることが分かりました。卵がふ化して成虫になるまでにおよそ1カ月かかるので、9月に幼虫の姿を見ることが多いのも納得できますね。特徴的な「つの」とツートン模様が面白いですね。 ……(^_^)



①羽化数日後、体長約1cm



②①から10日後、体長約3cm



③②から4日後、脱皮して体長約4cm、背中は薄い茶色

④③から6日後、背中の色が明るい緑色に、体長約6cm



⑤④から2日後蛹化が始まったようです。色が茶色に変わり尾の先が糸状のもので固定されつつあります。

⑥⑤の翌日、全体の8割が枯葉のような蛹に変化しましたが頭が残ったまま、落下していました！ ……残念ながら⑦のような成虫になれず無念

7月初旬に展示用に採取した幼虫を育てていました。いよいよ蛹になる準備(蛹化)までできましたが、あと一步で命尽きてしまいました。自然界で成虫になれるのは僅か1%ほどと聞きます。写真⑦の成虫はどれほどの試練をかいくぐって来たのでしょうか。 【レンジャー:菅原幸彦】

9月のイベント & お知らせ

イベント

新型コロナウイルス感染拡大や天候の急変等でイベントについても変更となる場合がありますので、観察の森のブログ等でご確認お願い致します。

◆「小さな自然の世界をのぞく観察会」

【日時】9月17日(土)10:00~12:00

【対象】小学3年生以上の子どもとその保護者 10名

【内容】目に見えないほど小さな生きものに注目し、発見と観察を楽しみます。

【持ち物】飲み物、帽子、かっぱ、虫よけ薬、歩きやすい服装と靴

【申込み】9月6日(火)午前9時より電話受付(先着)

◆「きのご観察会」

【日時】10月1日(土)10:00~11:30

【対象】小学生以上 15名 (中学生以下は保護者同伴)

【内容】キノコの専門家と秋の森でキノコを探して観察します。

【持ち物】飲み物、帽子、かっぱ、虫よけ薬、歩きやすい服装と靴

【申込み】9月7日(水)午前9時より電話受付(先着)



◆「家族で香り観察会」

【日時】10月8日(土)10:00~11:30

【対象】小学生以上の子どもとその保護者 10名

【内容】森を歩きながら香りのする植物を観察して、五感で自然を楽しみます。

【持ち物】飲み物、帽子、かっぱ、虫よけ薬、歩きやすい服装と靴

【申込み】9月8日(木)午前9時より電話受付(先着)

ガイドウォーク

毎週日曜日開催
申込み不要、どなたでも参加できます。

開催日: 4日, 11日, 18日, 25日

時間: 10:00~11:30, 13:30~15:00

(午前と午後の2回開催)

休館日



5日, 12日, 20日, 26日
毎週月曜日休館、月曜日が
祝祭日の場合は火曜日休館

観察の森へのアクセス



宮城交通バスの場合

- ① 仙台駅 乗車時間 約40分
- ② 長町駅東口 乗車時間 約30分
- ③ 八木山動物公園駅 乗車時間 約10分

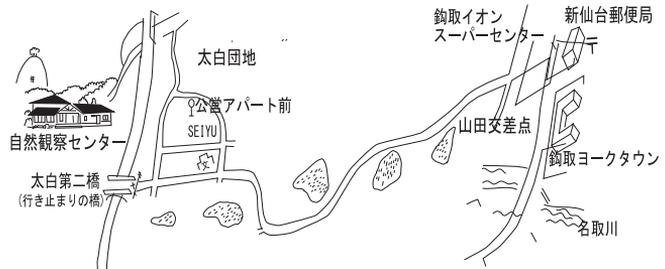
【先行】①②③「太白団地經由山田自由ヶ丘車庫行」

※③のみ「太白団地, 山田自由ヶ丘經由山台南ニュータウン行」

いずれも 公営アパート前 下車→ 徒歩15分

お車の場合

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。
道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。
駐車場から徒歩5分でセンター



〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森3 6 - 6 3
Tel: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133

発行: (公財)仙台市公園緑地協会

編集: 仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター